

第3回立川競輪事業の将来像（2020年版）検討委員会 議事要旨

○日 時：令和元年11月20日（水） 10：30～11：30

○場 所：立川競輪場 会議室

○出席者：大平委員長、矢ノ口副委員長、澤田委員、渡貫委員、齋藤委員、下河辺委員、遠藤委員、藤田委員、竹内委員

※傍聴者：なし

事務局：（開会あいさつ資料確認など）

委員長：次第に沿って進めていく。事務局より資料を説明願う。

事務局：（資料説明・机上配布資料の説明）

委員長：1、2回の議論をふまえて、「はじめに」および「まとめ」を加えてとりまとめた。収支改善後には令和6年度で3億5千6百万円の収益を見込めることからして、「まとめ」では3億円程度の収益を確保できる、ということが、今回の大きなとりまとめである。そのほか今回の添付資料を含め、委員の皆様のご質問やご意見をお願いします。

H 委員：全般的に言うと、分かっている人が分かっている人向けに書いたものという印象。全く関係のない人が読む機会は無いのかも知れないが、用語解説がほしい箇所がいくつかある。例えば2ページ、表中のグラフ表記では“JRA”だが解説は“中央競馬”となっているなど、チェックしたものを持参した。また、参考までに聞きたいのが、5年前に女子向けのイベントをしていたと思う。ビギナー女子を集めて市内の飲食店からイタリアンをケータリングしたり、ネイルサロンの体験があったり、レースの合間に選手とトークイベントがあったり、その感想を今でも SNS などで見かけるが、続いていないのはなぜか、単発の取組だったのか、特に市内の飲食店を絡めてもらったこともよいと思ったが、当時の反省や課題があれば聞かせて頂きたい。

事務局：女子向けのイベントは継続的にやっており、昨年は選手と交流しながらファンを増やす目的で、車券の買い方を教えながらのハーバリウムなど行っている。課題としては、選手の手配など、毎月には厳しいが、年に1回程度であれば継続的に実施できると思う。

H 委員：実際にそこから定着とは言わないが、リピートなり実績につながったファンはいるのか？

事務局：継続的に追ってはいないが、イベントに参加するような若い世代については平日に来場する機会が少なく、土日の開催自体も少ないので、このような取り組みを続けることで、今後どのように定着していくのか、それをどう調査していくのが今後の課題だ。

委員長：今お話ししたような取組は41ページの“その他の取組事項”の2において、一般開放しながら様々な取組をしていこうということで、この施策の中で包含させていると考えている。ただ、企画の内容が単発になっているので、どのような検証ができるのかを今後整理していきたい。委員の指摘のようにケータリングやカフェなどについては、今週末に“たちかわ競輪感謝祭”を行うので、その中で様々な世代のお客様の層へのサービスとして実施したい。

H 委員：そういった販わっているビジュアルやイメージが掲載されているとよい。

委員長：最初に指摘いただいた表現の仕方、用語解説は検討する。

事務局：用語解説については“資料編”のような形式で検討したい。

H 委員：欄外注記でも十分である。

D 委員：収益について、前回(2014年版)の“将来像”の予測値と実際の決算額との比較で、平成29年度や30年度の決算値では約8億円となっているが、今回更新する計画の今後の収益率予測が令和2年度から約4億円台となっており、乖離が大きすぎる気がする。平成31年度はグランプリ

なので外すとして、約8億円から4億円台への急激な落ち込みが、今回の冊子において収益を絞り過ぎていくかのように見えてしまうのが心配される。また、冒頭に説明のあった副題をつけない代わりとした前書きの件について、今回の冊子には基金や施設改修の経過も載せてもらっているが、今回の冊子が収益に特化した将来像であるならば、基金や施設改修を今後どうするかまでは説明されていないので、中身はこれまでの計画の収支の結果と今後の収支改善策に絞って、資料編に基金や施設改修をもっていったほうが、本編として収益に特化した内容になると思われる。

事務局：収益の絞り込み過ぎではないか、という話については、先日の経営会議でも同様の指摘があったが、車券売上の部分を見ると今後は減少傾向であることを見込まざるを得ず、また車券売上額と支出を対比すると、支出の方が全て多く、前回(2014年版)の“将来像”でも、車券売上額、即ち事業収入に対して支出が上回っているのが実態である。立川競輪場の収益モデルの特徴は“その他収益”に大きく特化している部分であり、この“その他収益”は変動要因が大きく、例えば場外発売のサイトや管理サテライトの歳入であり、それぞれの(サイトやサテライトでの)車券売上額に大きく影響されるため、収益についてはあまり高く見込めないため、結果として乖離が大きく見えてしまう。副題をつけずに“はじめに”の中で経営分析として扱うことについて、委員指摘のとおり基金や繰出金等については現状把握として載せている部分があり、これらを資料編に持っていく方が見やすいと思われるので、目次も含めて変更して部内で検討し、あらためて冊子にまとめた。

D 委員：収支の乖離については聞かれると思うので、答えを準備した方がよい。計画上は手堅く、売上予測は低く見積り、支出は予算ベースで載せるので、その差分を考えるとどうしても乖離が生じるものなので、その説明をできるようにしたほうがよい。

委員長：特に決算額側では“かなり頑張った”こともあり、この部分について、決算で“頑張った”のか、元々の見込みが甘かったのか、という乖離の指摘が経営政策会議でもあったので、対応できるようにする。他には意見はないか？

A 委員：47ページの収支の推移予測には「令和3年度以降のKEIRINグランプリの開催は考慮していません」と記載しているが、これを考慮すると売上はもっとよくなるのか。

事務局：グランプリの開催は各施行者が申請し、その申請内容が素晴らしいところで開催する、というのが業界の仕組みである。このため、立川で必ずグランプリが開催できることは確約できないため、グランプリを考慮しない収益予測としているが、結果として3年後にグランプリを開催できれば令和4年度の収益は大幅に大きくなることは想定される。

委員長：グランプリを開催すれば大幅に収益が上がるので、37ページの“4 その他”の“(1)現在の取組”と、“(2)今後の施策”の“②”に、事業部の使命として、施策としてグランプリの開催獲得を明記しており、決算の際には、収益結果の注記欄に“グランプリ”と書けるよう我々は努力していく。

H 委員：グランプリの開催はいつ頃に決まるものなのか。

事務局：令和3年度分は来年1月に申請し、3月に決まる。来年は平塚競輪場での開催である。

D 委員：2ページの各公営競技の動向の説明文のところで、「特に地方競馬とポートレースの売上げが目立っています」と表現されているが、JRAもそれなりの金額が伸びており、売上げというよりは増加率や売上率という表現の方がよいと思う。

事務局：JRAは元々金額が大きい、地方競馬とポートレースは割合が高くなっているのでこのような表現としていた。増加率の方が相応しいと思われる。

F 委員：この計画で目指すのは3億円の売上が目標値なのか、収益率が目標なのか、最終的な目標はどこに据えるのか。

事務局：まとめに記載のとおり3億円の収益を確保することが目標である。収支改善策を打つことで3億

円の収益が確保でき、一般会計への繰出しが出来、持続的な競輪事業ができる、というのが今回の主旨である。

F 委員：前回の議事にあったと思うが、ネーミングライツについて、取組目標に入れたのか、特別会計の歳入にならないので施策に入れないのか？

事務局：立川市としての仕切りとしてネーミングライツの収入が特別会計に入るかどうか、他の競輪場では特別会計に入っている事例がある。特別会計に入るなら、施策としてネーミングライツを検討していくことは必要と思われる。しかし一般会計に入るなら施策の書き入れるのは競輪場側のメリットがない。

F 委員：歳入が特別会計か一般会計かは、今現在は整理されていない気がする。

事務局：一般的に、ホームページの広告料収入と壁面広告の歳入については特別会計の雑入としている。同様に整理し特別会計に入るなら施策として検討したい。

H 委員：歳入を何に充てるかということなのか？

委員長：ネーミングライツを施策として載せるか否かの話は、特別会計か一般会計かの話を整理しないと、いけないのでは？

F 委員：歳入が特別会計ならば施策として載せるが、一般会計になるなら載せない、というのはその通りだと思う。その整理が、今…。

委員長：そうすると、ネーミングライツ自体をやらないのか、という話になってしまう。やるけど、歳入は特別会計か一般会計なのか、どちらの議論が先なのか？

F 委員：ネーミングライツをやるが、どちらの歳入になるのか、というのは技術的な立て付けの話になるのか？一般質問に出ていたので気になった。

E 委員：意見として、競輪場が公共施設ではなく、あくまで収益事業を営む施設なら、ネーミングライツについても広告料収入等と同じ扱いで特別会計として受け入れて、そこもふくめて上がった収益を、結果として一般会計に繰出せるもので、直接競輪場のネーミングライツが一般会計に繰出せるものではないようなイメージと思われる。

委員長：ネーミングライツは現実的なのか？

事務局：これまでの事業者のヒアリングの中では、稼働日数が少ないことと、ギャンブル施設であることなどで、なかなか手をあげてくれないと聞いている。このため、現実的かどうかというと、かなり営利的に厳しいと思われる。

委員長：市の方向として、今は市民会館しか無いが、他の施設でも行財政の面からは積極的にネーミングライツを打って出ている、という方向でいいのか？

F 委員：資産の有効活用が大きな柱となっているので、拡大、充実させていくというところがあるが、現実的には難しいところがある。ただ、考えとしてはそういう方向性を持っている。

委員長：市の方向性と冊子の方向性が異なってしまうのもいかなものか。担当課長としてこの表記について、一般会計に入るか特別会計に入るかは別として、積極的な取組として入れて欲しいということか？

F 委員：特別会計に入る整理であれば、競輪の将来像として入れたほうがよいと思う。

H 委員：税外収入の確保の面で言えばどこの歳入なのかということだが、RISURU ホールを所管する部として、名前を変えることによるイメージ戦略の切替の観点もあり、他の競輪場でも“競輪場”と称していたのが“〇〇パーク”とすることでイメージが変わったり、関心を集めたり、敷居が低くなったり、ロゴが新しくなることでリニューアルを打ち出せるとか、そういう戦略も打ち出せる気がする。

委員長：その分、お金があとからついてくる、というようなものか。

H 委員：あればもっとよい。

委員長：競輪場くらいの施設になると、ネーミングライツをもっと積極的進めるようにということは、立川市のどこかの計画に挙げるのか予定があるのか？

F 委員：行政経営計画の中にはそれなりに書くカタチであるが、具体的な施設名まで挙げるかどうかは別である。

委員長：それはこの競輪場施設も範疇に入っている、という理解でいいのか？

F 委員：他の競輪場で特別会計に入っているのであれば、E 委員のロジックを使って特別会計に入れていくというような中で、収支改善のための“その他収入”としてネーミングライツを目指していく、ということはあるだと思う。

事務局：税外収入的な歳入として扱えるなら、取り組むことは必要と思われるが、今回の将来像の方向性の中で、どこに書き込むかが難しい。収支改善策を“売上浮揚策”と“経費削減策”と“その他取組事項”として括っていて、“その他取組事項”に入ると思われるが、その中の“施設改修”の関係か“市民に愛される競輪場”の関係か“中期基本方針”の関係か“オリパラ”の関係か、今の構成の中でどこに入れられるかはなかなか難しい。新たな項目を加えるかどうか、ということにもなると思う。

F 委員：先程 H 委員の言われた“2 市民に愛される競輪場”の中に入れるのがいいのかもしれない。

事務局：他の競輪場の例で説明したように、インターネット事業者がネーミングライツの契約相手方となっていることが多いので、そこがイメージアップにつながるかどうか課題と思われる。

F 委員：最終的に載せても載せなくてもよいと思うが、現実的に難しいので載せる必要もないと思うが、一般質問で最終的にどう答えるか。そういう方向性は持っているが難しいと言うのか、現実的に難しいから最初から方向性を持っていないと否定するのか、そのあたりが変わってくると思う。

事務局：方向性としてはホームページ広告や壁面広告など広告料収入を実施しており、税外収入を増やしていく方向性ではあるので資産の有効活用を検討していくのがスタンスではあるという気がする。

委員長：ここに書き込むかどうかは別となるのか？

事務局：別となると思う。

委員長：積極的に我々も進めていくが、将来像が発行された際に、書き込まれていない理由を問われるので、一旦こちらで検討させてもらいたい。現実味がないからやらない、ということではなく、書き込むには違和感があり、議会答弁では“検討はしていく”、という姿勢で良いと思う。記載するか否かは預からせていただく。

E 委員：48 ページのまとめの中で、安定的な収益を確保した上での持続可能な競輪事業が目指せる、その結果計画期間中は3億円程度の収益を上げるという結論を導いている中で、一般会計の繰出し額は、競輪収益事業会計側のストックなり基金の状況や今後の施設の改修はかっちり決まっているわけではないので、その状況を踏まえて実際の一般会計の繰出し額が決まってくる、という理解でよいのか。

事務局：3億円の収益がイコール一般会計への繰出し額ではない。

E 委員：単年度の収益だけでなく、中期的なストックもあるので、そこをふまえて令和2年度を含めた今後の予算編成の中での組立てが決まっていく、という整理でよいのか。

事務局：単年度ごとの収益の中で一般会計への繰出しを継続して考えていくので、この収益の中で配分を考えさせていただくものである。

E 委員：ここが原資となって、この中で繰出し額が決まるという理解でよいのか。

事務局：はい。

G 委員：この冊子には画像や写真などは載せるのか？

事務局：H 委員の指摘あり、バランスを考えてスポット的に挿入することを検討する。

G 委員：表などの印刷はカラーか？

事務局：今回は白黒で考えている。

G 委員：69 ページで無料バスのことについて書かれていて“最終レースまでバスが走っていないのは立川競輪だけ”という指摘があるが、先日も広聴メールで意見が来ていたこともあり、ファンの拡大や育成とは異なる話だが、対応は難しいのか。

事務局：そもそもの考え方として、最終レースが終わった段階は大勢のお客様が帰られる状況があり、バスを発着させることにより大混乱してしまう。バスの進入経路の交通安全面でも、乗り切れなかったお客様への対応として現在3台で回しているバスを何台準備するのかという面でも、経費的な面でも課題があり、総合的に加味して最終レースの1つ前のレースで無料バスを終えている状況である。現状では入場者数が減少していることから、これらの問題がクリアできれば、今後最終レースまでバスを出すことは可能かとは思われる。

委員長：お客様の高齢化も進んでいるので、検討してみたいという気持ちはある。しかし当地は交通規制がかかっており、16時から17時までは車が通れないという状況になっている。また周辺対策上の問題もあるので、総合的に整理する必要がある、このような書き方となっている。

D 委員：将来像が表に出たときに、議員等外部の方が、“将来像という名前がついているが、収支の話ではないか”という話が再燃することが懸念される。ネーミングライツについても、市の政策としてネーミングライツを進めていくという中であって、この冊子に載っていない状況になる可能性があるとする、そのあたりの答え方の準備が必要と思われる。基金の話についても表をどう取り扱うかが載っておらず、毎年の収益の3億円の内々から一般会計に繰出すという考えについても、“基金があるので3億円そのものを一般会計に繰入れられるのではないか”という議論になりかねず、冊子だけを見ると説明が所々抜けているように見られてしまうので、それらの想定できる個所は準備しておいた方がよいと思う。

事務局：答えられるように準備していきたい。

D 委員：各委員の名前も出るので、そのあたりの理論や答え方を構築しておきたい。

委員長：前回の委員会でも指摘を受けているので、重々踏まえて対応していく。

E 委員：基金残高の状況等は前回(2014 年版)の“将来像”では載せていない。今までの単年度の収支でどれだけ利益を出すかという切り口からストックの状況へ、ストックの話になると基金の状況や施設の減価償却の状況や今後の施設改修の方向性など長いスパンの話が出てくるので、今回の将来像で語るべき守備範囲はなるべく限定した方がよいと思う。その意味でもこれらをもし載せるのであれば、検討状況が出ていないという点を踏まえると、後ろの資料編として検討資料ではないという位置付けするなど、慎重な掲載にした方がよい。

委員長：指摘の通り、資料編にしていこうと思う。それでも聞かれると思うので、理屈を整理しておくべきであると、理事者からも言われているので、しっかり対応していきたい。他の意見はいかがか。個別に指摘があれば対応していく。さまざま頂いた意見は事務局で協議し、必要な部分は事務局で判断させていただきたい。次に次第の“その他”を説明願う。

事務局：今後の予定について、3回の検討委員会の議論と指摘を踏まえて再度修正し最終的にまとめたものを原案として委員の皆様へ配布し、その原案を来年1月に庁内会議である経営会議、政策会議に上げ、了承が得られれば3月の総務委員会で報告する予定である。

委員長：本日はこれにて閉会とする。様々なご意見を頂き、今回の将来像の作成ができたことについて感謝申し上げる。我々事業部としては、計画を作る事が目的ではなく、将来像に掲げられた施策を着実に実行することと、その中で示した収益金を確実に確保することが使命だと思っている。今後は庁内会議を経て3月議会の報告の後、4月から実行できるよう準備していきたい。委員の皆様にお

かれては、ご多忙の中、当委員会に参加いただきありがとうございました。